

令和3年3月17日実施分

令和2年度 家庭教育充実促進事業

「発達がゆっくりの子のための入学準備」

②お子さんのこまっていることへの対策を考えましょう

講師：西岡 有香さん

(大阪医科薬科大学LDセンター 言語聴覚士 特別支援教育士 SV)



♪こんなことをお話いただきました♪

- ・第1回の講座を受けて受講者の方に「フィードバック用シート」を配付し、子どもさんのことで不安に思われている点をお書きいただきました。それに対する答えをまじえながらすすめました。



【身体・運動面への取組】

★粗大運動（姿勢の保持や移動運動などを代表とした運動、全身を大きく動かす運動）ではスイミングなどのお稽古事、体操教室、放課後デイでの理学療法士による療育、家族でのボルタリング、朝のランニングなどが有効です。スポーツについては、サッカーなど集団競技はルールの理解が難しいことがあるので、一対一でできるものがよいでしょう。巧緻性を養うにはピアノなどの楽器やお手伝いが有効でしょう。お稽古事は、指導者が子どもの特徴を理解してくれて、そして本人の好きなものを選ぶことです。決まった大人がその子に長く関わることができる（学校は担任の先生が1年ごとかわる）ことにはとても意味があるので、お稽古事はよいと思います。しかし、大人の考えを押し付けるのはよくありません。例えば英語は人気のお稽古事ですが、英語をさせることは必要でしょうか。

【巧緻性を育てる】

★お手伝いの中には、例えば、いちごのへた取り、豆をさやから出す、液体をコップに入れる、餃子を包む、クッキーの型抜き、洗濯ばさみを外したりとめたり、など、巧緻性を身に付けることのできるものが沢山あります。これは自分の作った料理だ、というような達成感や家族を助ける喜びを経験できる非常によい機会なので、ぜひ参加してもらいましょう。

【文房具の工夫】

★学校ではいろいろな文房具を使いますが、みんなと同じものを使ってがんばらせるというのではなく、いろいろと良い文房具が出ているので（目盛りのわかりやすい定規、円の描きやすいキャップ付きコンパスなど）、子どもの様子を見てどんどん活用すればよいでしょう。みんなと同じものを使いたいという子どものプライドもありますので、それを尊重することも大事ですが、みんなと違った道具を使っても目的を達成でき、「できるやん」という気持ちを1年生から持てればその後によい影響を持つことができます。

【学習について】

- ★「ことば」についてですが、「大人が子どもにあわせる」ということが大事です。大人のことばかけは、雑音のないところで、子どもにむきあって、子どもに理解できる明瞭さ、速さ、長さで、今の場面に関係していることを具体的に話しましょう。語彙を増やす取り組みでは、いろいろなワークブックがありますのでそれを利用するのもよし、その他、絵本の読み聞かせをした後、質問をして答えてもらうことや、「なぞなぞ」遊びもよいでしょう。「なぞなぞ」は問題を聞き取るによりワーキングメモリを発達させることにもなりますし、「ヒントをお願いします」という質問をさせることで、SOSの出し方の練習にもなります。

【インリアルの技法】

- ★セルフトーク（大人が自分自身の行動や気持ちを言語化する。いっしょに砂遊びをしているときに「お母さんもジャー。きれい！」）、リフレクティング（子どもの発音や文法の間違いを、大人が正しく言い直して聞かせる）、モデリング（無言でおもちゃを取ったら「おもちゃとってください、って言ったらいよいよ」と子どもに示す）などの手法があります。取り入れると子どもの言葉の力やソーシャルスキルの向上につながるでしょう。

【読みや書きについて】

- ★音韻意識を育てる→単語はいくつの音からできているか答える、単語を反対から言う、○（か等の音）で始まる言葉を考える、などからその力は身につきます。
- ★最近さまざまな音声教材や読み上げ教科書が出ているので使ってみるのもよいでしょう。



【ことばの発達が与える影響】

- ★気持ちや説明をことばでできないと手が出たり、行動で表すことになります。友だちや先生の言っていることがわからないと学校生活でのいろいろな場面で参加しないことになり、自分の世界で遊ぶことになり、その結果、大人の目には「勝手なことをする」とうつってしまいます。言葉を使えるようになると「問題」と思っている行動が減ります。
- ★家庭での遊びやいろいろな場面で「貸して」「あとで」「返して」「待って」「いれて」「やめて」という言葉をどの場面でどう使うかを練習すれば子どもの学校や生活で役立つでしょう。
- ★指示が禁止形だと発達がゆっくりの子どもは混乱します。例えば「走ってはだめ」ではなく「右側を歩きます」としてほしいことを伝える言葉かけをしましょう。

【学校で受ける配慮と支援】

- ★配慮は、通常学級の中で工夫をしてもらうことです。例えば「座席の配慮」「雑音への配慮」（音に敏感な子は多いです）「先生の話し方」「黒板の使い方」などに担任の先生に相談して配慮してもらったら、「わかる」「できる」が増えたということもよく聞きます。
- ★支援は、個別の指導計画に従い、特別支援学級で学び、その子どもに必要な個別の対応をしてもらうことです。通常学級の教室内でできることもありますが、周囲の目や雑音環境も考えると特別支援学級で学ぶほうがその子どものためにより場合もあります。
- ★日本の他の地域と比較して、大阪市には特別支援学級や通級指導教室があり社会的資源としてはいろいろな選択肢があります。何が目的なのか、そのために何をどう工夫すればその子ができる

のかを考えましょう。子どもが成長する、子どもの学びを伸ばすというところに価値観を置き、子どもの日々の様子をよく見て、学校と相談しながら子どもの学びやすい環境を整えることを考えていきましょう。

♡アンケートより♡

- ・入学前に不安を抱えていたけど方向性が見えた気がします。
- ・とても分かりやすく、知りたかったことがたくさん知れてスッキリしました。
- ・教材を知ることができてよかった。
- ・習い事をつづけるかどうか迷っていたのですがこの話を聞き、本人も楽しんでいるので続けさせたいと思いました。頭でわかっているけどなかなか日常生活の中でできていないことがあったので勉強になり行動に変えていきたく思います。
- ・自分が子どもをもっとよく見てあげないと思った。どんな部分を見たらよいか分かったので参考になった。
- ・がんばりすぎなくてよいことがよくわかって少し楽になりました。具体的な例がたくさんあって理解しやすく取り入れやすいと感じました。
- ・youtube 等で見ることができれば夫にも伝えやすく、家族で理解を深められると思いました。
- ・具体的に「こんなふうに工夫すればよいのだ」「こんな風に声かけをしてあげたらよいのだ」というのがわかったのとみんなと同じでなくても、子どもがやりやすい環境にしてあげればよいと気持ちが楽になりました。
- ・新生活で緊張もしていますがお話で心にゆとりができ、親も楽しく一緒に足並み揃えてがんばれそうです。